

秋の夜長に JAZZ を愉しむ

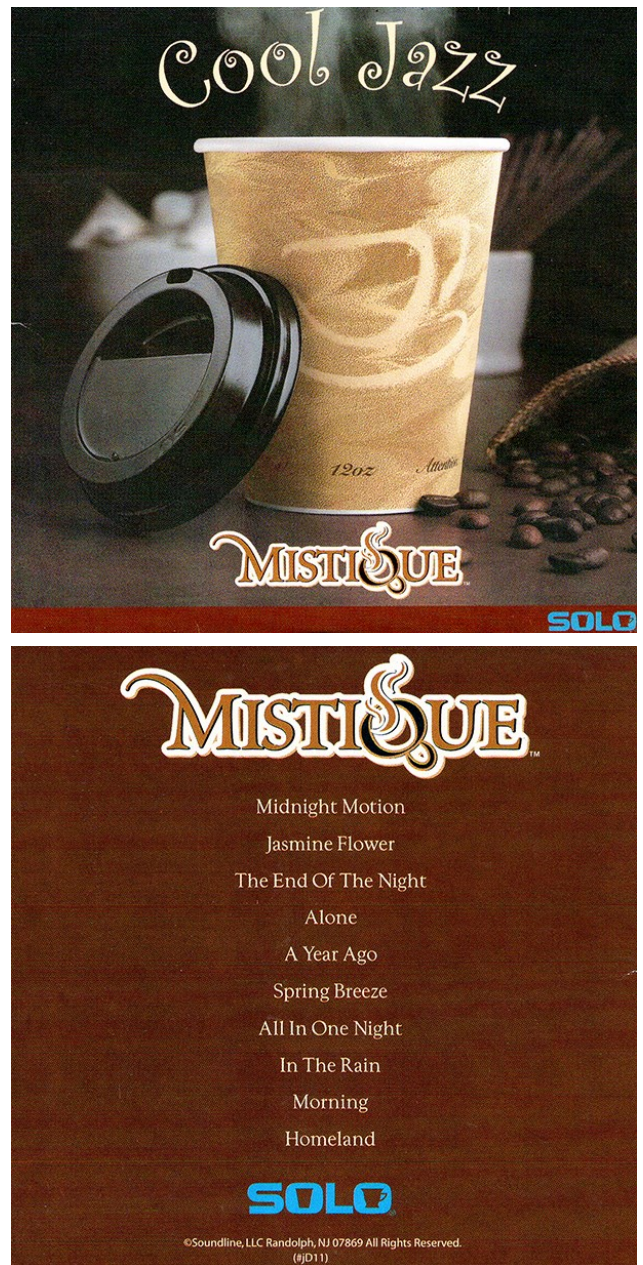
季節の中でもひと際心が澄み透る秋ですが、いつ頃からかよく音楽を聴くようになりました。それはもっぱら自宅や自室にいる時間が増えてからのこと。車いすを手放せなくなり、行動範囲が狭まり、内面と向き合う時間が増える中で、特に JAZZ に親しむことが多くなりました。今回はその契機となった思い出になります。個人的でもあり、ライフワークでもあり、ステイホームとステイルームの生活を一枚の CD に励まされました。それが Cool Jazz “MistiQue” という、限定非売品のアルバムでした。

この CD を手にしたのは 2006 年の夏前です。事務所に来訪した米国 SOLO CUP 社のアジア地区担当セールスマネージャーからいただいたもの。新しく投入されたデザインシリーズの “MistiQue” (ミスティーク) カップの販促用 CD でした。同時にブルゾンとキャンパスバッグもいただいたのですが、今は CD だけが手元に残ります。他の品物は着古したり、使い古してしまい、残念ながらお役御免となりました。

CD のタイトルは “Cool Jazz”、ミスティークデザインの 12oz カップと黒のトラベラーリッドが表面の主役で、カップの下に “MistiQue”、右下に SOLO のマークが入ります。裏面は曲名が 10 曲並び、その下にやはり SOLO のマークが入っています。元は紙ケース入りの CD でしたが、角が摩耗し破れ始めたために、カットしてプラケースに収め直しました。

Album Artist は Various Artists なのですが、全曲目はサクソ奏者の Kenny G. が自身のアルバムに収録している曲と重なります。アレンジが違っていたり楽器構成が少し変わったりしています。折角いただいた SOLO “MistiQue” Cool Jazz アルバムは今でもよく聴きます。秋の夜長に少し音量を上げて聴くと、不思議に落ち着くし、考えも定まります。

CD は手元に残りました。“MistiQue” デザインのカップは米国 Dart 社の SOLO カップとして市場に残りました。Mystique (神秘的) から名を得たこの “MistiQue” デザインですが、2000 年代に入ったコーヒー業界は、エスプレッソビバレージの進化が目覚ましく、ワールドバリスタチャンピオンシップが華やかでした。ラテアートやデザインカプチーノなど、バリスタの類まれなテクニックにより普遍的価値を得たこのジャンルを、いち早くデザイン化した SOLO 社の感性はやはり素晴らしいと思います。



Mistique は Mystique の造語でデザイン名です

話を戻しますが、現在は企業としての SOLO 社は既に存在せず、こうした素晴らしいプロモーションを手掛けた人たちも、今は SOLO ブランドとは無縁なのでしょう。栄枯盛衰に思いをはせる秋の夜長は、私に少しの苦い思い出と、多くの感謝を届けてくれるのです。

私は SOLO カップ社とその製品に、今も敬意と愛着を覚えています。一つの歴史が始まる時には必ずパイオニアが登場し、変革が進みます。その軌跡に学び、できれば発展させたいと考えていました。

ところで日本のコーヒーと珈琲文化は、世界に類を見ないほど独特の進化を遂げてきたと聞くことがあります。確かに日本で磨き抜かれた抽出方法やコーヒー器具は世界に広がりました。既に逆上陸ともいえるコーヒーショップやカフェを目にします。しかしそれらの器具メーカーを支えてきた、多くのコーヒー店の努力と揺らぎない信念も見逃せません。その土地で何十年もの時を刻むコーヒー店やカフェがあります。多くの顧客を支える地場のコーヒー会社があります。

旅してでも訪ねたいと思うコーヒー店やカフェは、そこに集まる人々の熱意と絆があって、伝説の存在として彩られ、語り継がれていきます。そして現在は、この市場を目指す若い感性が躍動しています。そうした個々の豊かさが日本のコーヒー市場を確かに染め始めています。

いつの時代にも選択肢が豊富なコーヒー市場であること、その豊かさを守り育てて欲しいと思います。今、我が国のコーヒー市場は消費者の理解を得て明るく輝いています。オーナーやクルーそれぞれの価値観と信念が、お客様に豊かさを提供し、カップ一杯に溢れる喜びと勇気を与えています。私の勝手な考えではありますが、シアトル・ポートランド・コペンハーゲン・ロンドン・オスロ・メルボルンと続くコーヒーロードが、今は日本の街々を流れているように思うのです。手放してただ喜んでいるわけではないのですが、今は素晴らしい時代の幕開け期ではないでしょうか。

こんなことを書き終えた 10 月 1 日の朝ですが、2022 World Barista Championship Australia で、日本代表の石谷貴之さんが 4 位入賞、との報が届きました。石谷さん、お疲れさまでした。

コーヒーにできること、
コーヒーに学ぶこと、
コーヒーを守ること。

コーヒーを売らないコーヒー屋になろうと、意識し始めたカフェグッズ創業時を振り返る秋の夜長です。



SOLO 10oz MistiQue

© 2022.10.11 Cafegoods Co., Ltd. 小林 文夫